

令和4（2022）年度

**運営に関する計画・自己評価
最終評価**

令和5（2023）年2月

大阪市立大宮小学校

大阪市立大宮小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

(1) 学校の概要・地域・保護者の状況

本校は、これまでの教育振興基本計画に示されている「知・徳・体」に沿って、学力及び体力の向上、思いやりや志の醸成、健康な心身の育成を図ってきた。

平成29年度から令和3年度までの5年間は、国語科を研究教科として取り組み、基礎基本の学力定着、及び自己表現力・論理的思考力を高める教育活動を行ってきた。さらに、令和3年度は、特別支援教育や日本語指導、多文化共生教育など多様な子どもに関する指導法についても研究を進め、全学年でダイバーシティ&インクルージョンを目指した教育活動にも力を入れて取り組んできた。また、文化庁の派遣事業や、地域の方々など外部人材を活用した出前授業や伝統文化、自然との触れ合いなど、多様な体験活動を通して豊かな心を育んできた。

その結果、児童・保護者ともに本校の教育活動アンケートでは、教育活動の取り組みや成果に対する肯定的回答の割合が高くなり、学校選択で、本校に入学する数も年々増加傾向にある。保護者は、概ね学校に協力的で、学校への信頼・期待も大きい。地域は、PTAと連携して子ども向けの行事を多く実施してきたが、コロナ禍でここ2年間は、ほとんど実施できていない。

本校の強み・・・子どもは素直で、言われたことは比較的きちんとできる。保護者、地域は協力的で、外部講師も依頼すれば引き受けてくれる。

弱み・・・自分で考えて行動したり、新しいことに挑戦しようとしたりする意欲が薄い子どもが多い。受け身の姿勢が見られる。

(2) 3つの「最重要目標」から見た現状と課題

①「安全・安心な教育の推進」に関して

ア. 令和3年度に本校が認知した“いじめ”の件数は124件。全件とも解消しているが継続支援・観察を行っている。

本校では、いじめに関する校内研修や児童理解研修会を実施するとともに、日常の言動観察、日記、いじめアンケート、教職員間の情報交換を密にとるなどして、サインを見逃さない取り組みを押し進めている。特に、いじめの未然防止に重点をおき、いじめを許さない意識、傍観者をつくらない、認め合う仲間づくりなど心の教育を推し進めてきた。

学年および生活指導部で、児童同士のトラブルなど早期発見に組織的に取り組み、令和2年度以前の“いじめ”関連の問題は全件解消している。しかし、いじめは「どこでも、誰でも、いつでも」おこるものであり、一層の指導・支援の積み重ねを図る必要がある。

・3年度、全国学力・学習状況調査や本校児童アンケートで「いじめは絶対許されない」と回答した児童はそれぞれ96.1%、93%。

イ. 「学校のきまり・規則を守っている」児童は約87%である。

児童の好ましくない言動には毅然とした態度で指導することを全教職員で共通理解するとともに、学習規律の確立に組織的に取り組んでいる。学級の荒れはない。ルールを守るという意識がより身に付けられるように全体指導、学級指導を徹底する。

・学力経年調査の質問紙調査(3～6年)、本校児童アンケートで「学校のきまりを守っている」と肯定的に回答した児童はそれぞれ83.8%、90%

ウ. 児童間暴力、対教師暴力は、過去6年間で0件である。

対教師暴力や対人暴力、器物破損はない。暴力行為を伴う“けんか”など児童間暴力は学校管理下で0件、管理下以外で3件、計3件でいずれも怪我はない。語彙力の乏しさから間違った言葉の使い方することでトラブルが生じるなど、人間関係の未熟さ、自己表現の拙さ等があり、コミュニケーション能力を核にした人間関係力を向上させることは、今後必要である。

エ. 令和3年度の長期欠席児童（30日以上）は13名である。

3年度の長期欠席児童13名のうち13名が不登校である。（家庭の方針で学校には通わさないで、自宅学習を選択している数は、3件である。）不登校対応に当たっては、学校教育の意義・役割や働きかけや関わりを持つことの重要性などをふまえ、組織的な対応に努めてきた。さらに、心の居場所づくり、安心して通うことができるいじめや暴力を許さない学級づくり、体験活動など学ぶ意欲の充実、きめ細かい教科指導など、不登校としないための魅力ある学校づくりと、教職員の資質向上や教員を支援する学校全体の指導体制の充実など、不登校児童生徒に対するきめ細かく柔軟な対応に努めている。特にコロナ禍で、登校に不安を感じる児童には、オンラインや個別のプリント学習などの対応を講じている。

②「未来を切り拓く学力・体力の向上」に関して

ア. 「学力」に関して、平成29年度の全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均を4～6ポイント下回っていたが、平成30年度以降は、国語・算数・理科（平成30年度）全てにおいて5～11ポイント全国平均を上回っている。

▼全国学力・学習状況調査の結果

		国語	算数	理科	合計
R3年度	本 校	76	78		154
	大阪市	63	69		132
	全 国	63.4	70.2		134.9
R1年度	本 校	69	70		139
	大阪市	58	65		123
	全 国	63.8	60.6		130.4
H30年度	本 校	74・58	68・84	61	315
	大阪市	66・51	62・49	55	283
	全 国	70.7・54.7	63.5・51.5	60.3	300.7

※H30年度は、国算ともA（基本）B（活用）問題 R2年度は、中止 理科は3年ごとに実施

▼令和3年度 小学校学力経年調査の結果

教科	項目	3年	4年	5年	6年
国語	学年平均点	75.3	80.6	75.0	75.9
	市平均点	70.3	66.2	66.5	68.1
	標準化得点	107.1	121.8	112.8	111.5
社会	学年平均点	71.9	75.1	64.7	79.6
	市平均点	66.2	67.5	62.4	71.5
	標準化得点	108.6	112.3	103.7	111.3
算数	学年平均点	71.8	80.0	73.7	81.2
	市平均点	66.6	66.2	64.0	71.2
	標準化得点	107.8	120.8	115.2	114
理科	学年平均点	71.0	82.0	78.7	72.6
	市平均点	66.1	69.5	64.6	64.3
	標準化得点	107.4	118	121.8	112.9
英語	学年平均点			87.2	87.6
	市平均点			80.3	82.7
	標準化得点			108.6	105.9

※英語は、5、6年生のみ実施 標準化得点は、大阪市平均を100とした時の相対的な得点

令和3年度の小学校学力経年調査では、全教科でいずれの学年も本市平均を上回っている。各学年には、「市平均に対する総合正答率の割合が7割以下の児童が3～10%いる。「できない子はできるように、できる子はもっとできるように」を基本方針に、学習内容が定着していない児童には基礎的・基本的内容がしっかりと身に付くように習熟度別授業をはじめ個別などの指導の工夫をするとともに、伸びる児童は一層伸ばすようにする。特に、高学年の学習指導は、教科担当制を実施するなどし、さらなる授業改善を図る必要がある。

イ。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答は74.8%である。(R3経年調査より)

▼学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている (%)

3 年	4 年	5 年	6 年	全体(平均)
67.2 (24.3+42.9)	71.2 (50+21.2)	76.9 (41.5+35.4)	83.8 (41.9+41.9)	74.7 (39.4+35.3)

※(内は、「そう思う」「どちらかとそう思う」を合わせたもの)

29～R3年度までは「繰り返し行う学習形態に取り組む」ことで基礎・基本の力を一定レベルまで上げることができてきた。今後は、思考力・判断力・表現力のさらなる育成をめざし、活用力もつけて、協働学習や主体的・対話的で深い学びを実現することを目指すとともに、その視点からの学習過程、及び授業の改善を図る必要がある。

また、質問紙調査から全学年とも「読書が好き」(肯定的回答)は、61%、「学校の授業以外に読書を全くしない・または30分以内」は、61.5%で読書への関心・意欲を高め、読書量を増やす必要がある。

ウ. 体力に関しては、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の8項目合計点では、男女とも平成29、令和元年度は、全国平均を上回っているが、令和3年度は、男女とも全国平均より4～5ポイント下回った。年度や項目によっては、全国を下回るなど、差が生じるといった課題がある。

コロナ禍で、体力が落ちている傾向が、全国的にみられるが、令和3年度、本校では男女とも全国平均を下回った。男子では特に、反復横跳び、立ち幅跳び、50m走で、全国との差が大きい。女子では、立ち幅跳び、反復横跳び、握力等に課題がみられる。体育学習の他に休み時間での運動遊びや、体育的行事の充実を図る。取り組みとして水泳特別練習、綱引き大会、なわとび週間などを実施し、体力・運動能力を伸ばす指導を工夫するとともに、特に課題である種目については年度ごとに重点種目を決めて取り組む必要がある。また、主体的に運動する習慣が身に付いていないことも課題である。

▼令和3年度全国体力・運動能力運動習慣調査結果より (平均値)

<5年男子>

	握力 (kg)	上体起 こし (回)	長座体前 屈 (cm)	反復横跳 び (点)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳 び (cm)	ソフトボ ール投げ (m)	体力合計点 (点)
本校	15.2	18.6	33.1	35.4	42.0	9.8	133.5	20.0	48.5
大阪市	16.1	18.5	32.9	37.7	42.2	9.50	147.8	20.2	50.8
全国	16.2	18.9	33.5	40.4	46.8	9.45	151.4	20.6	52.5

＜5 年女子＞

本校	14.5	17.4	37.4	34.4	37.6	9.9	130.8	12.9	49.9
大阪市	16.0	17.6	37.7	36.3	34.6	9.70	140.8	12.8	52.8
全国	16.1	18.1	37.9	38.7	38.2	9.64	145.2	13.3	54.6

- ・全国体力・運動能力調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、53.2%である。

③「学びを支える教育環境の充実」に関して

- ア. ICTの活用については、導入時から教員研修を実施し、オンライン対応を早くから実施できた。一人一台PCの1学級当たりの活用状況は、令和元年度は4.8回であった。2、3年度は、臨時休業、端末移設等により活用回数は減っている。
- イ. 令和3年度の時間外累計平均労働時間は29時間37分(12月現在)であり、1か月45時間を超えない教員は、45.16%、1か月の時間外が45時間を超える月を1年間に6月までとする目標に対しては、74.19%の達成率であった。

中期目標

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

＜全市共通＞

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(全国学力・学習状況調査において令和3年度88.2%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

＜学校＞

- 令和7年度末の本校アンケート調査で、以下の項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下の通りとする。
 - ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和3年度93%）
 - ・「学校のきまり・規則を守っている」…90%（令和3年度90%）
 - ・「自分にはよいところがある」…90%（令和3年度86%）
 - ・「人の役に立つ人間になりたい」…90%（令和3年度98%）
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を90%にする。（令和3年度95%）
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるような教育を行っている」という項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を80%以上にする。（R3年度は、この形でのアンケートはない）
- 令和7年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」という項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を、90%以上にする。（令和3年度91%）

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

＜全市共通＞

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。(令和 3 年度 39.4%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。標準偏差値を小さくする。
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。(令和 3 年度 57%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 60%以上にする。(令和 3 年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、53.2%)

＜学校＞

- 令和 7 年度までの全国学力・学習状況調査において、国語、算数とも、全国平均より平均正答率を高くする。
※理科がある年度は理科も含める。
- 令和 4 年度以降、大阪市経年学力調査(国語・算数・理科・社会)について、平均正答率を市平均以上にするとともに昨年度の標準化得点と同等もしくは高くする。
- 令和 7 年度末の本校アンケート調査や経年調査で、「学校の授業時間以外に、ふだん 1 日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30 分より少ない」と答える児童の割合を 10 ポイント減少させる。(令和 3 年度は経年調査 26.7%)
- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、すべての種目の結果を全国平均の水準以上にする。
- 令和 7 年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる(だいたい当てはまる)」と回答する児童の割合を、80%以上にする。(令和 3 年度は 77%)
- 令和 7 年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度末の本校アンケート調査で、英語(外国語)、プログラミング教育などに関して、それぞれ「楽しい」「わかりやすい」「もっとしたい」の項目について、「当てはまる(だいたい当てはまる)」と回答する児童の割合を、それぞれ 85%以上にする。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の本校アンケート調査で、「読書が好き」で「1 か月に 1 冊以上本を読む」と回答する全校児童の割合を 80%にする。
- 2～6 年で、一日 1 回は一人一台端末を開き、「心の天気」や個に応じた学習に活用する。
- 週に 1 回は、「ゆとりの日」を設定し、17 時半には全員が退庁する。また、1 か月の時間外勤務を 45 時間以内の教職員の割合を、80%にする。(令和 3 年度は、74.19%)
- 4 年生以上で教科担当制を最低学期に 1 回設定し、教材研究を深める時間を確保する。
- 地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。
- 学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。（全国学力・学習状況調査において令和 3 年度 88.2%）
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- 令和 4 年度末の本校アンケート調査で、いじめ、規則の遵守や自己肯定感、社会貢献に関する次のそれぞれの項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下のとおりにする。
 - ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和 3 年度 93%）
 - ・「学校のきまり・規則を守っている」…85%（令和 3 年度 90%）
 - ・「自分にはよいところがある」…85%（令和 3 年度 86%）
 - ・「人の役に立つ人間になりたい」…85%（令和 3 年度 98%）
- 令和 4 年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を 90%以上にする。（令和 3 年度 95%）
- 令和 4 年度末の本校アンケート調査で、「学校は、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるような教育を行っている」という項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を 70%以上にする。（令和 3 年度 75%）
- 年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。（令和 3 年度 91%）

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35%以上にする。（令和 3 年度は 39.4%）
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。（令和 3 年度は 57.0%）
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 50%以上にする。（令和 3 年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、53.2%）

学校の年度目標

- 令和4年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を5ポイント減少させる。(令和3年度は経年調査26.7%)
- 令和4年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる(だいたい当てはまる)」と回答する児童の割合を、75%以上にする。(令和3年度は77%)
- 令和4年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を80%以上にする。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- 2～6年で、一日1回は一人一台端末を開き、「心の天気」や個に応じた学習に活用する。
- 週に1回は、「ゆとりの日」を設定し、17時半には全員が退庁する。また、時間外勤務を45時間以内の教職員の割合を、80%にする。

学校の年度目標

- 4年生以上で教科担当制を最低学期に1回設定し、教材研究を深める時間を確保する。
- 地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。
- 学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 把握したいじめについては、学級担任を中心にていねいに聞き取りを行い、月2回の生活指導連絡会や職員会議など、教職員間の情報共有に随時努めることができた。廊下・階段の歩行の課題を改善するため、月目標に合わせて「廊下・階段安全歩行強調週間」を設定したり、「ろうかはあるこう」などの学校掲示も工夫したりしたことで、よい意識付けとなり、実際にけがの件数も昨年度より減少した。今後も引き続き、きまりを守る指導を継続的に行う必要である。
- 道徳教育をはじめ、人権教育、SDGsの学習、インクルーシブ教育、多文化共生教育などを盛り込みながら、計画的に実践を行い、地域に密着した体験活動も行うことができた。
- 防犯・防災教育の年間計画を立て、非常時を想定した避難訓練を行い、自分の身を守る方法を学習したり、避難の仕方を確認したりすることができた。また、引き渡し訓練も行い、学校と家庭とが連携した取り組みも行った。今年度は地域や消防との合同防災訓練を実施し、児童が興味関心をもって防災に対しての意識を高めることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

▼令和４年度 全国学力・学習状況調査の結果

	国語			算数			理科		
	大宮小	全国	標準偏差	大宮小	全国	標準偏差	大宮小	全国	標準偏差
R3	76	64.7	2.4	78	70.2	3.1			
R4	71	65.6	2.5	65	63.2	3.3	71	63.3	2.9

○令和３年度・４年度ともに、国語、算数、理科すべての教科において、平均正答率は全国平均よりも上回っているが、国語科、算数科において、標準偏差値は前年度と比べ大きくなっているのが課題である。

▼令和４年度 小学校学力経年調査の結果

【標準化得点(市基準)】による分析

国語	３年	４年	５年	６年	社会	３年	４年	５年	６年
R3	102.4	106.9	104.8	103.7	R3	102.5	103.7	101.1	104.0
R4	105.3	103.9	104.3	104.3	R4	104.5	100.4	101.1	102.8
算数	３年	４年	５年	６年	理科	３年	４年	５年	６年
R3	102.5	106.3	104.5	104.9	R3	102.4	106.1	107.5	103.9
R4	106.0	103.5	103.9	103.6	R4	103.8	103.2	105.5	104.4
英語	３年	４年	５年	６年					
R3			104.1	103.1					
R4			100.9	103.2					

【標準化得点】市平均の正答率を 100 としたときの換算値で、100 より数値が上であれば想定的に良好であることを、下であれば課題があることを示す。

○令和３年度、４年度ともに、どの教科も平均正答率は市平均以上である。同一母集団で比較すると、４年は国語・算数・理科の３教科、６年は社会の１教科で昨年度よりも高くなっている。

○自主学習に意欲をもたせるため、学校全体で表彰をしたり、手本となるノートを廊下に掲示したり、自主学習を週に一回以上実施し、自主的に課題を見付け取り組むようにしたりするなど工夫した。

○学級担任・特別支援・習熟担当などそれぞれが連携して授業を進めるなど、組織を生かして学力向上に取り組むことができた。

○各学年の授業研究に加え、全教員による公開授業、がんばる先生（算数科）、OJT など、様々な分野における研究に取り組むと共に、講師先生による指導・助言を頂き、授業改善に繋がった。また、様々な研修や校内研修にも積極的に参加することで指導技術が高まってきた。

○全学年、週２回、15 分の「英語タイム」を設け、英語の歌やチャンツに親しむ中で、楽しく活動することができた。また、C-NET の先生による授業では、発音や表現方法について学び、積極的にコミュニケーションをとろうとする児童が増えた。

- なわとび週間を行い、自分の目標をもち意欲的に運動に取り組むことができたとともに、運動することの楽しさを味わうことができた。また、体育科の授業時に持久走等を行い、体力の向上を図ることができた。その他にも、夢授業や区の運動能力向上サポート事業などの出前授業も実施することができ、児童の運動への興味・関心を高めることができた。ここ数年の課題である 50 m走、立ち幅跳びにおいて、記録を年間で2回取り、2種目とも設定した目標を達成することができた。今後も継続して運動できる環境の整備や取り組みを行っていくことで児童の運動能力の向上につなげていきたい。
- 毎月の健康チェックや、学期に1回のキッズチャレンジ週間を継続して実施することによって、児童の健康への意識づけ、基本的生活習慣の定着が図れた。コロナの影響もあってか、メディア時間の増加が特に多いように感じる。改善方法や対策を考え、継続して呼びかけを行う必要がある。
- 栄養教諭が各学年に食に関する指導を2回以上実施したこと、給食委員会の児童を中心に食育月間や給食週間の取り組みを実施したこと、給食の食材に関する紹介やクイズの動画やスライドなどを通して、食に対する興味・関心を持つきっかけになった。

【学びを支える教育環境の充実】

- 週に1度ゆとりの日を設定することにより、全体的に時間外勤務が減少した。また、効率よく会議を行ったり、内容を精選したりし、意識だけではなく実務的な内容の見直しについても進めることができた。
- ICTに関しては、全学年が積極的に一人一台端末を活用し、調べ学習やプログラミング学習、デジタルドリルなどに取り組み、ICT機器の活用の幅が増えた。
- 校内研究・研修の計画を立て、本年度の研究主題に沿った内容、全国学力テストの分析、インクルーシブル教育など、幅広い内容の研修を行うことができた。個々の教員の授業力や指導力の向上だけではなく、教員同士の協働の促進にもつながった。
- 昼休みの読書祭りや読書ノート等の取り組み、図書室前の季節の行事などの掲示を工夫することで、読書に親しむ児童が増えた。年々低下する児童の読書量を改善するために、引き続き児童の興味・関心を持たせるための取り組みを継続していく必要がある。
- 定期的に「学校だより」「学年だより」「保健だより」「食生活だより」等各種の便りを配付し、また、地域にも学校だよりを配付した。学校ホームページでも、各学年の取り組みも毎日更新し、教育活動を公開し、授業や校外学習などの様子を伝え、教育活動の見える化を推進することができた。

大阪市立大宮小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成 状況
<p>【最重要項目 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(全国学力・学習状況調査において令和3年度88.2%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和4年度末の本校アンケート調査で、いじめ、規則の遵守や自己肯定感、社会貢献に関する次のそれぞれの項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下のとおりにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和3年度93%） ・「学校のきまり・規則を守っている」…85%（令和3年度90%） ・「自分にはよいところがある」…85%（令和3年度86%） ・「人の役に立つ人間になりたい」…85%（令和3年度98%） <p>○令和4年度末の本校アンケート調査で、「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」という項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合を90%以上にする。(令和3年度95%)</p> <p>○令和4年度末の本校アンケート調査で、「学校は、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるような教育を行っている」という項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を70%以上にする。(令和3年度75%)</p> <p>○年度末の本校アンケート調査で、「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。(令和3年度91%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>・月2回の生活指導連絡会（職員会議・生活指導部会）の中で情報共有を図り、いじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期対応をする。「大宮小いじめ対策基本方針」に則り、全学級・全学年で、好ましい人間関係や信頼関係のある集団を育成するための活動を意図的、計画的、継続的に行う。問題等が生じた際には、教職員全体で共通理解に努めるとともに、解消に向けて、組織的に取り組む。また、不登校児童においては、日ごろから家庭との連携を密にし、オンラインを活用した学習やプリント学習を通してつながりをもち続けることができるようにする。</p>	B

指標 ・いじめ調査を年3回実施し、その結果「いじめられている」、「いじめた」と答えた児童等には聞き取りと対応を行う。	
取組内容② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・「安全安心ルール」とともに、大宮小学校のきまりについて教職員で共通理解し、児童の実態に基づいて、生活目標を設定し、学級・学校全体で指導する。日常的な指導と強調週間を設けて指導する。 ・生活目標は、月単位・隔週単位で設定する。また、児童の実態に基づいて、生活目標の設定、継続、変更等を行う。	B
指標 ・「廊下・階段安全歩行に関する強調週間」を年2回設定し、日常的・継続的に各学級で注意喚起を行う。また、看護当番を中心に教職員で休み時間の見守りを行い、運動場のきまりについても意識できるようにする。児童アンケート「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合について、85%以上を維持する（令和3年度は90%）	
取組内容③ 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・防犯・防災教育の年間計画を見直し、非常時に備えた訓練を実施し、PDCAに沿って改善する。また、保護者と教職員が連携して児童の安全を守る取り組みを考える。 ・理科や社会科・道徳など各教科、特別活動・総合的な学習の時間で、災害に関する映像の視聴や体験を重視して、防災教育を実施・評価・改善する。	A
指標 ・各学年、年1回以上防災に関する授業を行うと共に、保護者・地域と連携した合同防災訓練や引き渡し訓練を実施する。また、防災に関する取組を行った際には、その都度学年だよりや学校ホームページ等で取組について掲載し、保護者・地域への周知を図る。	
取組内容④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・道徳の時間を要として、教育活動全体を通して自己肯定感を高めるような道徳教育に取り組む。 ・人権が尊重される学習活動づくり、インクルーシブ教育、多文化共生教育について教職員が理解を深化する中で、多様な価値観や文化を背景にもつ子どもを含め、子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える集団づくりを実践する。 ・企業の出前授業やオンライン授業、外部講師の招聘など、子どもの内面に根ざした道徳性の育成に努めるとともに、職業観、本校への誇り、地元への愛着等を育てる。	B
指標 ・各学年で豊かな心の育成につながる実践や体験活動をそれぞれ年1回以上行う。 ・児童アンケート「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する児童の割合について、85%以上を維持する。	

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析
【全市共通目標】について ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。（全国学力・学習状況調査において令和3年度88.2%）→93.2% 達成 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 （R4.3 2.7% → R5.3 3.2%） 未達成

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

（ R5.2 時点では 3 名不登校が解消されたが、新たに 7 名の児童が不登校になっている。）

○豊かな心の育成につながる実践や体験活動を各学年 1 回以上計画または実施した。

【学校の年度目標】について

令和 4 年度末の本校アンケート調査で、いじめ、規則の遵守や自己肯定感、社会貢献に関する次のそれぞれの項目について、全学年とも、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を以下のとおりにする。

- ・「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」…100%（令和 3 年度 93%）→ 89% 未達成
- ・「学校のきまり・規則を守っている」…85%（令和 3 年度 90%）→ 90% 達成
- ・「自分にはよいところがある」…85%（令和 3 年度 86%）→ 86% 達成
- ・「人の役に立つ人間になりたい」…85%（令和 3 年度 98%）→ 97% 達成

○学校生活アンケート「学校は生命や人権の尊さについての教育活動をよく行っている」の項目について「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する保護者の割合
昨年度 94%→94% 達成

○本校アンケート調査「学校は、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいかわかるような教育を行っている」という項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する保護者の割合 昨年度 75%→75% 達成

○学校生活アンケート「学校は、多様な体験活動を実施している」の項目について「当てはまる（だいたい当てはまる）」と回答する保護者の割合 昨年度 85%→92% 達成

【取組内容】について

①指標に書かれてある通り、学期に一度、いじめアンケートを実施することができた。また、把握したいじめについては学級担任を中心に丁寧に取り組みを行い、月二回の生活指導連絡会（生活指導部会・職員会議）の際に、情報を学校全体で報告することで、組織的に対応できていた。不登校児童についても担任を中心に複数の先生で対応することができた。しかしながら、本校アンケート調査「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」では、昨年度末より 4%ダウンしており、年度目標を達成することができなかった。

②指標に書かれている通り、「廊下・階段安全歩行に関する強調週間」を年 2 回取り組むことができた。（うち一回は生活目標として月間）

・令和 4 年度末の本校アンケート調査で、「学校のきまり・規則を守っている」において、中間評価の時と比べ、肯定的な回答が 2%上がっている。

③防災教育の年間計画に沿って、災害時に備えた訓練を概ね実施することができている。参考用の映像やパワーポイントを使用しながら行うことで、児童の防災に対する意識も高まっているように感じる。引き渡し訓練や風水害時集団下校訓練など、保護者と連携した訓練も実施することができている。

③道徳教育をはじめ、人権が尊重される学習、SDGS の学習、インクルーシブ教育、多文化共生教育などを通して互いのよいところを見つけ尊重しあい、個性やちがいを認める大切さに気付ける活動に取り組むことができた。また、中間評価の改善点から在日外国人教育を組織的に取り組むにあたって、在籍児童の情報共有を図った。

・体験活動や出前授業等を計画・実践し、各学年で子どもの実態に応じた体験活動に取り組み豊かな心の育成につながる活動を実践することができた。

後期への改善点
<p>① 本校のアンケート調査「いじめはどんなことがあっても許されないと思う」の項目で、今度は目標数値を超えることができなかったため、次年度も引き続き指導していく必要がある。また、否定的な回答をした児童を把握し、なぜそのように思うのかを聞き取る必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月二回の生活指導連絡会（生活指導部会・職員会議）では、内容が重複することもあるため、報告の方法を変える必要がある。 ・情報共有シートの活用に児童の顔写真をはることで、他学年の先生もどのような児童なのかわかるようにする。不登校児童だけでなく、遅刻が多い児童についても保護者の協力を求める必要がある。（日々の遅刻が不登校につながっていく可能性があるため） <p>② アンケートの数値は上がっているが、廊下を走っている児童がいるため今後も引き続き指導が必要。また、全教職員も含め学校のきまりについてもう一度周知・共有する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの一つである「廊下・階段安全歩行に関する強調週間」の在り方を再度考える必要がある。（期間中は意識できている児童も一定数いるが大きな効果はでていないように思われるため） <p>③ 今年度同様、計画的に防犯・防災教育を実施していく。11月に行われた不審者対応については、事前に教職員向けの研修を行う必要がある。また、避難訓練に関する業務（関係施設への連絡、案件の起案等）を分散させる。</p> <p>④ 道徳教育や人権教育などバランスをとりながら計画的に指導を行っていく。</p>

年 度 目 標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。（令和3年度は39.4%）</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。（令和3年度は57.0%）</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。（令和3年度全国体力・運動能力調査において、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合は、53.2%）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○令和4年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合を前年度よりも減少させる。（令和3年度は経年調査26.7%）</p>	B

<p>○令和4年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる(だいたい当てはまる)」と回答する児童の割合を、75%以上にする。(令和3年度は77%)</p> <p>○令和4年度末の本校アンケート調査で、「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動について理解が深まった」の項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を80%以上にする。</p>	
--	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上近隣幼稚園・保育園と連携を深め、保幼小交流など、幼児と児童との相互交流、教員間の合同研修・交流の機会を設け、表現、体力、運動能力、人間関係力を中心に、互いの子どもの様子や教育活動を相互参観する。また、意見交換の場を設ける。小学校への円滑な接続ができるようにし、記録としてまとめていく。 <hr/> <p>指標・保育園(所)、幼稚園、本校教員の交流(幼児と児童、保育士・教員と教員)を年5回以上実施することで、本校アンケート調査(中間・年度末)の「小・幼・保の連携で、互いの子どもの様子や教育活動への理解が深まった」という項目について肯定的回答をする関係幼稚園・保育所及び本校の教職員の割合を80%以上にする。(令和元年度93%、令和2年度3年度はとれていない)</p>	B
<p>取組内容② 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業はもとより普段の授業において、児童一人一人の能力や理解・習熟の程度に応じて、基礎・基本の定着を図る学習や発展的な学習を行い、個々の力をそれぞれ伸ばす。 ・全学年で計画的にICTや思考ツールなどを活用して協働学習や、主体的・対話的で深い学びの成立をめざした授業実践を行う。 ・家庭学習・自主学習の定着を図るために、自主学習のモデルノートを提示し、全校児童で取り組む。また、手本となるような自主学習ノートを月1回玄関や教室、廊下などに掲示したりコピーしたりして「家庭学習・自主学習の手引き」を作成する。 <hr/> <p>指標・各学級において、学習理解が十分でない児童を担任・習熟度別担当等が指導する機会を放課後に週1回以上設ける(放課後学習サポート事業を除く)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修等で学んだことを生かし、教員全員が主体的、対話的で深い学びの成立をめざした授業(含む:「公開授業」)に取り組む。 ・国語・算数科における単元評価テストの正答率を75%以上にし、達成できない場合は課題別復習プリントを達成できるまで行う。 	B
<p>取組内容③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の強化を図るため、全学年、週2回、15分の「英語タイム」を設け、簡単なコミュニケーションゲーム、絵本の読み聞かせ、ICTを活用した英語教育番組の英語ゲームなどをするとともに、年間1回以上の英語集会、校内掲示等の英語表示、歌やDVDの校内テレビ放送視聴など、日常的に英語にふれ慣れ親しむ環境を充実させる。 ・「English Day」を定め、外国人留学生(C-NET)と交流し、自分の考えや意見などを伝えることができる英語コミュニケーション能力を育成する。 <hr/> <p>指標・各学年、週に2回(各15分)英語に親しむ活動を実施する。</p>	B

<p>・外国語活動に関する校内研修会を年間1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力づくりアクションプランに基づき、体力向上の取組を計画的に進め、その結果を体育向上プロジェクトでまとめ、全教職員で共通理解し取組を改善する。外遊びや各種運動・スポーツへの勧奨、50m走、立ち幅跳びなどについて自己目標の設定、記録会等への参加、トップアスリートの招聘などを通して、体力向上と運動への意識を高める。運動量確保のため、指導の充実と場所の確保、運動器具の整備充実を図ると共に、各学年で学級裁量等の時間を利用して運動をする。 ・跳ぶ、投げる、握力、調整力、筋力などを伸ばすため、運動器具等を整備するとともに、体力・運動への関心を高める掲示やコーナーを設ける。 <p>指標・体育科の年間指導計画に位置付け、1年に2回以上記録をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの推奨を図るために、年2回以上の企画（「大宮スポーツ交流会」「なわとび週間」等）を行う。 ・自身の記録に関心を抱かせる工夫や、いつでも計測できるよう環境を整える。（立ち幅跳び計測用メモリや握力計の設置など） 	B
<p>取組内容⑤ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣の確立を図るため、生活アンケートによる児童の健康に関する実態把握、毎月の欠席調査やけがの把握等から課題を分析し、対策を共通理解し共通実践する。 ・健康委員会の児童による定期的な呼びかけと担任による毎月の健康チェック（ハンカチ、ティッシュ、爪）などで意識づけをして、健康に過ごす基本的な生活習慣の定着を図る。 ・「早寝 早起き 朝ごはん」などの望ましい生活習慣や病気の予防等について、キッズチャレンジ週間を実施して啓発活動を行う。睡眠やメディアの使用時間の調査などを行い、生活リズムが崩れている児童には、保護者も交えて指導・助言し、生活を改善させる。 ・子どもの発達段階に応じた健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などの日常指導を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた新しい生活様式への対応推進を図る。 <p>指標・学期に1回、キッズチャレンジのチェックカードを用いて、振り返りを行わせる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活習慣の確立に向けた取り組みとして、学校保健委員会を年1回開催する。 	B
<p>取組内容⑥ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する指導の全体計画」に基づき、学年ごとに年間計画を作成し、食と健康に関する内容等を取りあげた指導を行ったり、給食委員会の児童とともに「食に関する行事」に年2回以上取り組んだりして、児童の食意識を高めるようにする。 ・各学級での給食指導（ICT含む）や食育を実施することで、児童アンケート「栄養のバランスを考えて好き嫌いせず食べようとがんばっているか」で、肯定的回答80%以上になるように、個別指導・支援も含め、継続指導を行う。（令和3年度は80%） ・「しょくせいかつだより（児童向け）」「食育つうしん（保護者向け）」等を発行し児童とともに家庭にも働きかけ、保護者アンケート「食事を用意する時、黄赤緑の栄養バランスがそろうように意識しましたか」で肯定的回答80%以上を取り、栄養バランスの大切さを意識づける。（令和3年度は86%） <p>指標・「しょくせいかつだより」を毎月1回、「食育だより」を学期に1回以上発行し、給食の内容などとともにホームページに掲載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、食に関する指導を年2回以上行う。 	A

【全市共通目標】について

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は、36.1%となり、目標の35%以上を達成することができた。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、昨年度よりもポイントが上昇した学年もあれば、できなかった学年もあった。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合が65.6%（令和3年度53.2%）で目標を達成することができた。

【学校の年度目標】について

- 令和4年度末の大阪市学力経年調査及び本校アンケート調査で学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の質問に「全くしない・30分より少ない」と答える児童の割合は、全くしない8%、30分より少ない20%と前年度より増加したので、達成できなかった。（令和3年度は経年調査26.7%）
- 令和4年度末の本校アンケート調査で、『早寝、早起き』を行い、規則正しい生活を送っている」の項目について「当てはまる（だいたい当てはまる」と回答する児童の全体の割合が73%で目標を下回った。学年ごとに見ると4年生以上が目標を下回った。

【取組内容】について

- ① コロナが落ち着き、計画した交流が年6回以上実施できる予定である。関係する低学年の職員は連携できたと実感することができたが、それ以外の職員はどのように交流しているかわからなかった。
- ②各学級において、学習理解が十分でない児童に対して、担任・習熟度別担当等が指導する機会を放課後に1回以上設けることができた（放課後学習サポート事業を除く）。
 - ・年6回の校内授業研究やがんばる先生（算数）などで、児童が筋道立てて表現し、学んだことを日常に生かすことをめざした実践を行った。また、各学年でICTを活用して協働学習を行い、主体的・対話的な深い学びの成立を図った。
 - ・家庭学習・自主学習の定着を図るために、自主学習のモデルノートを提示し、全校児童で取り組んだ。また、自主学習への意欲を高めるために、学期に1回、たくさん学習している児童や工夫のある学習をした児童を全校で表彰した。手本となるような自主学習ノートを職員室前廊下や各教室、教室前廊下などに掲示したが、「家庭学習・自主学習の手引き」を作成するまでには至らなかった。
- ③週2回のイングリッシュタイムが定着し、自然に英語に親しむことができてきている。英語教材ドリームを活用により、繰り返し行っていくことで英語を楽しんで学習している。
 - ・1学期中にDreamに関する研修及び外国語活動に関する研修を実施した。
 - ・5年生と6年生においては週に一回C-NETの先生が来てくれることで、正しい発音の練習ができています。
 - ・夏休みにEnglish Dayを実施することができた。
- ④今年度は、50m走と立ち幅跳びの2種目を年間で2回以上記録を取った。どちらの種目も1回目と比べて、記録を伸ばすことができた。児童自身も自分の成長を感じることができ、運動への関心や意欲を高めることができた。

- ・1月下旬には「なわとび週間」を行った。休み時間になわとび台を使って積極的に一生懸命に練習する児童が増え、外遊びをする児童が以前に比べて増加したとを感じる。
- ・休み時間に砂場の開放を行うことで、砂場で立ち幅跳びの練習をする児童も見られた。
- ⑤ 健康チェック・キッズチャレンジ・健康委員会による定期的な呼びかけにより、大半の児童は健康な生活習慣の確立を図ることができた。保護者の意識も年々高まってきている。また学校保健委員会では、「手洗い」をテーマに動画を作成し視聴することで、手洗いの大切さを伝えることができた。
- ⑥ 「食に関する指導の全体計画」に基づき指標の年2回より多く食指導を実施し、また給食委員会主体の「食に関する行事」では食育月間、給食週間、さらに今年度は食品ロス川柳について取り組み、年3回実施することができた。児童は委員会によるクイズ放送や動画資料などを楽しみながら取り組んでおり、食への興味と意識を高めることができた。
- ・給食指導資料（ICT）を学級で活用することは、視覚的にわかりやすく給食に出てくる食べ物などへの理解ができていた。また、毎日の給食に合わせた掲示物を見たり、担任などによる声かけもあり、苦手なものでも少しだけは食べようとする児童の様子がよく見られる。児童アンケートの結果は目標を超えて87%と中間よりも1ポイント上がりバランスよく食べるために好き嫌いせず食べようと意識している児童が増加した。
- ・児童向け、保護者向けの啓発資料の発行は指標通り実施できた。ホームページによる啓発についても毎日「今日の給食」などで取り上げ実施することができた。保護者アンケートでは、目標を超え89%が肯定的回答、中間よりも3ポイント上回り、保護者が子どもに食事を用意する時に栄養バランスを意識する人が増加した。

次年度への改善点

- ① 交流の仕方や時期を、保幼小間で相談し、計画を検討する。実施した交流について、実施内容を記録、職員に報告し共有する。
- ② 主体的・対話的な深い学びをめざした、授業研究を深めていく。
 - ・授業内容を授業中に理解できるようにするのが大前提ではあるが、放課後指導をしたくても保護者の協力が得られない等の事情があるので、曜日を固定し、学校だよりで知らせてはどうか。
 - ・自主学習の定着を図る工夫。
- ③ 来年度もEnglish dayを実施できるようにする。また、来年度も英語に関する研修を実施する。
- ④ 運動能力を向上させる環境を整える。（砂場の活用、運動に関する掲示など）
- ⑤ 早寝、早起きが高学年を中心に年々できなくなっている。メディアの使用時間もかなり増加している。長時間のメディアの使用が体に及ぼす影響を伝えたり、家庭でのメディア使用のルールを提案したりして、対策を行っていく必要がある。
- ⑥ 食育は、食品ロスなど食と他教科を連携することにより、より効果的な取り組みになると考えられる。全体計画立案時により細かな見通しを立てて、今後も様々な活動や取り組みから児童の食への興味や理解を深めていく。

年 度 目 標	達成 状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○2～6年で、一日1回は一人一台端末を開き、「心の天気」や個に応じた学習に活用する。</p> <p>○週に1回は、「ゆとりの日」を設定し、17時半には全員が退庁する。また、時間外勤務を45時間以内の教職員の割合を、80%にする。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○4年生以上で教科担当制を最低学期に1回設定し、教材研究を深める時間を確保する。</p> <p>○地域連携の取組や多様な体験学習により、児童の好奇心・探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。</p> <p>○学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴などの教育ビッグデータを収集し、毎学期ごとに見直し、活用していく。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、日常的にICTを活用した授業を実施し、個別最適な学びと協働的な学びの視点から学習活動の充実を目指す。 ・一人一台端末を活用したオンライン授業を年に1回以上実施し、機器の扱いの習熟及び実践事例の蓄積に努める。 <hr/> <p>指標・1人1台端末を活用した家庭学習を月1回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT、プログラミング教育に関する校内研修会を年1回以上実施する。 	B
<p>取組内容② 【基本的な方向7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学やOB校長、教育センター等と連携して、校内研修・研究の実をあげるとともに、校内授業研究を通して教員の資質向上に努める。さらに、若手教員の指導力向上を目指して組織を生かした育成に取り組む。 <hr/> <p>指標・校内研修（含む：「メンター研修」）を年10回以上行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上全員が、公開授業を行う。各学年の研究実践を学校としてまとめる。 	B
<p>取組内容③ 【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをしたり、関連図書を並べたりして、読書に興味をもたせるよう努める。最低低学年は月に3冊、高学年は月に1冊以上読むように指導する。 ・読書習慣定着と読書量の増加を図るため、図書室の配架を工夫するとともに、図書を充実させる。 ・図書室及び読書活動における環境整備を行い、読み聞かせやブックトーク、ベストリーダー表彰などの取り組みを通して図書室来館者数、読書量を増加させる。 <hr/> <p>指標・読書タイムや「読書ノート」等の取り組みを継続し、児童一人当たり年間低学年は最低36冊、高学年は12冊以上読むようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般紙、子ども新聞等に俳句や投書などを応募して新聞を活用する。 	B

<p>取組内容④ 【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域による学校支援の取組や学校・地域・家庭の連携による様々な取組を推進する。・学校の取組や情報に関して透明化、可視化を図ることを方針に、日々の子どもの活動を紹介したり、学校評価をはじめ各種データを公表したり、学校方針や取り組みを掲載したりする等ホームページを充実させ、本校の教育実践等を広く広報する。年間アクセス数 4 万件以上を維持する。(令和 3 年度は 73801 件)	A
<p>指標・学校アンケート「登下校の見守り、学習活動支援、PTA 活動、学校行事など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」の項目において、肯定的に回答する保護者の割合を 60%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none">・ホームページを、各学年とも週1回以上更新する。	

年度目標の達状状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【全市共通目標】について</p> <p>○週に1回の「ゆとりの日」を設定することにより、仕事にめりはりをつけることができ、時間外勤務を減らそうと意識して働くことができた。また、ゆとりの日以外でも早く退勤する職員が増えた。2月時点で、時間外勤務が45時間以内の教職員の割合は、92%である。</p> <p>【学校の年度目標】について</p> <p>○年度当初の計画通り、4年生で理科、5・6年生で理科・図工・音楽を教科担当で行い、より深い教材研究をしてきたので、児童が理解しやすい授業展開ができています。</p> <p>○教育ビッグデータについて、あまり活用できなかったが、「心の天気」の入力は2学期以降徹底するようにし、活用できた。(最低週一回の入力)</p> <p>【取組内容】について</p> <p>①デジタルデーを中心に一人一台端末を活用して家庭学習を行うことができた。調べ学習や画像検索など、必要な場面に応じて発展的に活用することができた。</p> <p>②指標に書かれている校内研修を今年度は14回行うことができた。また、公開授業においても計画的に進めることができており、達成が見込める。</p> <p>③読書タイムや読書ノート、ベストリーダー賞の表彰、読書週間、図書委員会の読み聞かせや図書館開放、図書室の季節や学習内容に応じた掲示物などにより、読書に興味をもつ環境設備ができた。取り組みを継続したことで、興味を持ち、進んで読書をする姿が見られた。また、ブックトークやお話会、絵本作家の来校など外部の方たちと関わることで、本に興味を持ったり、親しんだりするよい機会になった。そして、国語科を中心に関連した図書を読めるよう促したり、新聞を活用し子ども新聞等に俳句などを応募したりすることができ、結果掲載もされ、児童の励みになった。しかし、読書量を増加させるまでは至っていない。</p> <p>④ 創立90周年に関わる行事、太鼓学習、菖蒲の株分け、防災体験等、地域による学校支援の取組を行った。また、PTAと連携を取りながら、運動会や校庭キャンプに取り組んだ。学校アンケート「登下校の見守り、学習活動支援、PTA活動、学校行事など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」の項目において、肯定的に回答する保護者の割合は、98%で、60%以上の目標は達成できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年週1回以上のホームページ更新を行い、日々の子どもの活動を紹介した。学校だより・学年だより・学校評価等をホームページで公開し、学校の取組や情報に関して透明化、可視化を図った。学校アンケート「学校は、行事や授業等の公開、お便り、ホームページ等を通じて、

教育活動の公開、情報発信をよく行っている。」において、99%の評価を得ている。

・2月8日現在、ホームページアクセス数は54117件で、年間アクセス数4万件以上を維持できた。

後期への改善点

- ① 時間を意識して働く努力をしても、仕事量が減らなければ早く退潮するのは難しいため、放課後の会議などを効率的に行うことができるようにする。(働き方)
- ・従来の専科としての在り方は、次年度においても必要といえるが、学級担任の教材研究時間の確保を引き続き考えていかなければならない。(教科担任制)
 - ・教科担当制については、将来的に高学年を中心として進めていくメリットはある。しかし、そのためには、評価の在り方や、どのような教科をどの学年で行うかなど、学年単独で判断するにはまだまだ課題がある。(教科担任制)
 - ・学年末に向けて、児童個々の様子をまとめていく。(教育ビッグデータ)
 - ・来年度以降、段階的に活用していく。(教育ビッグデータ)
 - ・端末の管理の仕方や情報モラル教育を計画的に行っていく必要がある(教育DX)。
 - ・実践事例やプログラミング学習など、一人一台端末の活用事例を交流していく。(教育DX)
- ② 研修内容の精選を行い、過度な負担のないよう計画的に行っていく。
- ③ 図書室へ行く時間の確保や本に親しむことのない児童への意識付けが必要。
- ・学校全体で食後を読書タイムにしてはどうか。
- ④ 保護者アンケートで登下校の見守りは教員がするのが当たり前のような意見があったので、登下校の見守りに対して保護者の意識を高めるような発信の検討。
- トイレの美化について、保護者の協力(ボランティア)の検討。